



夕刊 十月三日 發行部



夕刊 十月三日 發行部

定規募應
□ 歌 詞 郷土小唄としてローカルカラーの豊かなもの
□ 用 紙 四百字詰半紙制原稿用紙
□ 篇 数 一人一篇限りとする
□ 姓 名 住所姓名(或は筆名)は封書のみに自署し原稿には絶対に附記せざる

賞金貳拾圓(入選一篇)
賞金拾圓(佳作五選)
新妻 久満夫
小山田 滋
渡邊 何鳴
高久 晚霞
白木 英尾

七夕祭歌詞
再募集に就いて
赤井 嶽 男

途中で降雨その他不慮のなく、殊に何ぞか之を生か理由によつて、審判官が中すべく終始論議されたり或作止、無勝負を宣告する所請の如きは、五節から成る歌撤回試合はたよく之位世に調の四節迄は豊厚なりはりも張り合ひ抜けるものは無くて、この意味に於て本社企てた七夕祭歌詞募集が更に向ふ一ヶ月餘を延ばして再募集する事になり差當りドラングの結果となつたの計劃の發表以來宛然然ハテ切れそうな期待を之に集められた多數願望者は勿論その成行きに相當の關心を拂はれた讀者諸君に向つては枕詞の至情を叙べて誠に遺憾千萬である事を告げねばならぬ

所以でないと同時に作者に種合に於て地方をみざる對しても決して親切な道り方でも無いと云ふ信念から、選者の熱意がうかばれたつたが、更に再募集を決定したた次第である、而も今回の募集作中には實にモトと息と云ふ處迄行つてゐるものが少なくなつたのであるから、主観側意の存する處を諒とせられ快く再び満福の蘊蓄を傾けられ第一次の推薦書に於ては、之が爲歌詞全體が換骨脱胎に陥つたりする等の場合を顧慮しこの無

雀の卵
去る二十九日午子亭に於て七夕歌詞審査會で即決

審査會經過
「七夕祭」歌詞
「審査會」通過
「審査會」通過
「審査會」通過

秋夜獨居 三首
○虫の音の乏しくなれば茶を煎て、獨り居とおもふことのわびしき
○鳴く虫をぬらして降れる秋雨に、心向ひつづひそかなるかも
○虫の音のこほろこほろと鳴く夜を、すべなき語り吾が獨りする

桂月の歌碑に就いて
○今秋から夏井川溪谷のこれだけはごめん装りたい紅葉だよりがラヂオで廣く紅葉だよりがラヂオで廣く天下に放送されるやうになつたのは郷土人としてうれしつたのの一つである

近代的な若い女の身だ
しなみの一つに、爪の美しさが数へられるのはうれしことだ

誰が殺したか
水谷 準 作
龍谷寺 勝 譯
「龍谷寺」殺人(上)
「龍谷寺」殺人(上)
「龍谷寺」殺人(上)

井坂 醫院
平町 田町
電話 五五九番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物
金物問屋
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

初秋の旅行に
素晴しい乗心地の!
三五年式流線型新車を!!
是非御利用御用命の程を御願申します。

關影商店平支店
本店 水戸線下館驛前
電話 六一一番
茨城縣土浦市田中町
(電話六五三)
常磐線關本驛前
(電話四五四)
常磐線四合驛前
(電話四八)
久慈支店
(電話一三七番)
海上給油 大津、平沼、及油槽所 小名濱、江名濱

三井タクシー
平町 田町
電話 五五九番

高久病院
平町 田町
電話 五三三番

關内藥局
電話 四〇番

上田醫院
病室完備
電話 二二九

貨切の御用命は是非
電話 二一七番

フタバ商會
平町 新川町、橋際

勉強ノ店
建築用品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品、建築材

婦人科
院長 木村寅次郎

外科
醫學博士 内木宗八

病院
皮膚科
性病科
泌尿科
花柳病科

關影商店平支店
電話 六一一番

三井タクシー
電話 五五九番

井坂 醫院
電話 五五九番

高久病院
電話 五三三番

關内藥局
電話 四〇番

上田醫院
電話 二二九

貨切の御用命は是非
電話 二一七番

フタバ商會

勉強ノ店
電話 二一七番

高久病院
電話 五三三番

關内藥局
電話 四〇番

上田醫院
電話 二二九

貨切の御用命は是非
電話 二一七番

フタバ商會

勉強ノ店
電話 二一七番

高久病院
電話 五三三番

關内藥局
電話 四〇番

上田醫院
電話 二二九

貨切の御用命は是非
電話 二一七番

フタバ商會

勉強ノ店
電話 二一七番

